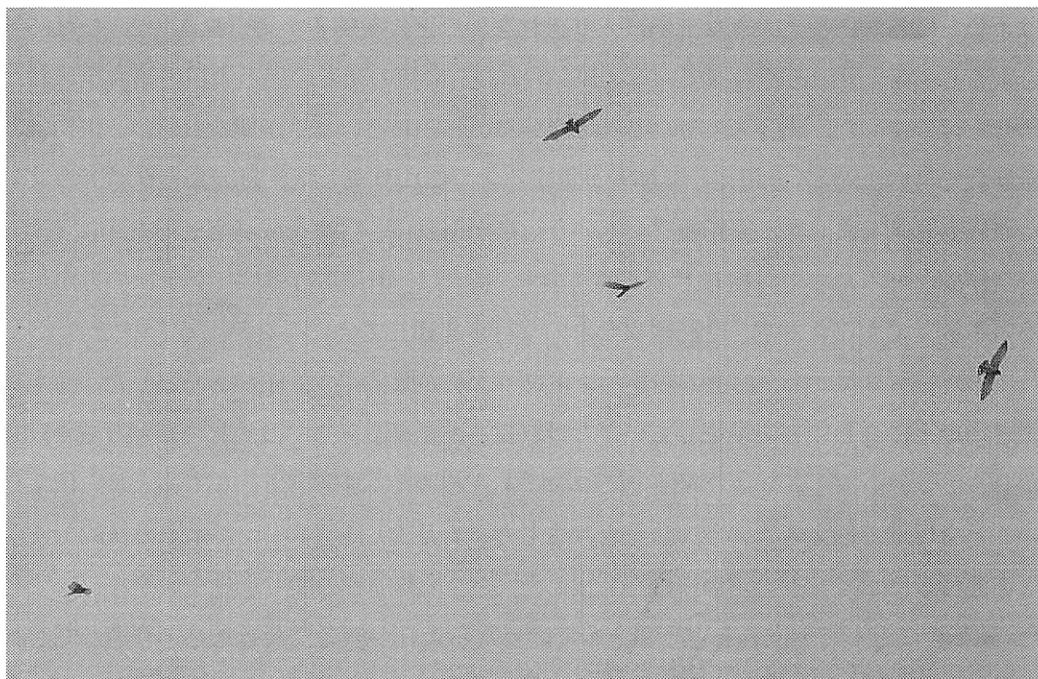


# 協議会ニュース 108号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2006. 9



## サシバ

9月、サシバ、伊良湖の秋の渡り、と思われる方が多いと思います。

実は、これ今年4月4日、越戸大山西麓で撮影しました。

この日2時間の間に13羽が東に渡って行きました。

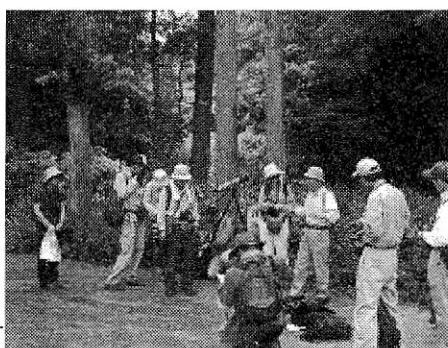
・フォローアップ研修	大谷敏和	.....P2
・ダンゴムシ調査の案内		.....P3
・特定外来生物アンケート調査結果		.....P4
・支部だより		
津賀田中学校野外学習のボランティア協力 吉田彰	.....P6	
・会員のページ		
八丈・三宅島旅行記(その1)	竹内秀代	.....P8
・自然観察会～	近藤記巳子	.....P9
・第2回理事会報告		.....P10
・事務局だより		.....P11
・行事案内 他		.....P12

## 『フォローアップ研修』

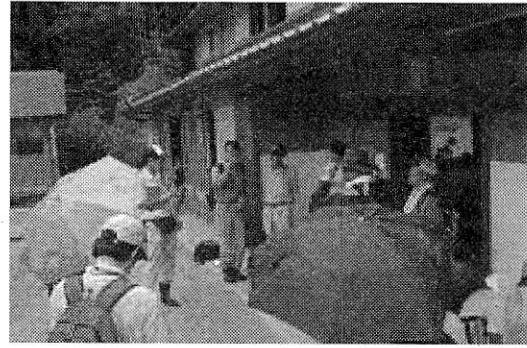
研修部 大谷敏和

以前協議会が行う行事に参加する会員はとても少なかったです。これは係・協議会の悩みであります。そこで会員の知りたいニーズは何か?会員が活動していることは何か?こんなことに心がけてテーマを決めるようにしたところ、参加者が1けたから2けたになりました。2003年9月の村上興正先生の講演会「我が国の外来種管理の現状と課題」では予想をはるかに超え大きな部屋に入りきれないほどの参加者が集まりました。これに気をよくし、森や里山と関わっている会員がいれば、会員の発表の場と会員の紹介を兼ねた研修を行いました。最近生き物の出現時期がおかしいねという声が聞かれれば、生物暦の研修会を行い、20名を超える参加者が集まるようになりました。研究会とタイアップした研修も企画しました。委託観察会という行事があれば、行事を成功させるために下見・資料作成などみんなで分担してがんばります。新人は、下見に行けばベテランの方からいろいろ教えてもらえます。受託観察会という行事を通して会に活気が出るものです。

このたび愛知県から「海上の四季ハンドブック」の原稿作成依頼がありました。海上の生き物などに詳しい方に執筆していただければ、委託事業としてはそれで終わります。しかし、せっかくの行事を会の活性化につなげようと考え、研修担当として達人から伝えたことを現地で伝えるという方法をとりました。7月29日はテーマが水際の植物ですから赤池付近にポイントを定め研修をしました。その後参加者の間で意見交換会を行いました。執筆者にとっても内容をどうまとめていったらよいか参考になったという声が聞かれました。初回は、私の取りまとめが悪く、観察するポイントがぼけてしましましたが、会を重ねるにつれ、内容に深まりが出てきたと思っています。各支部でも新人養成をされているとは思いますが、他支部の達人の話を聞くのも多いに刺激になるかと思います。また、話題になった海上の森にまだの方はぜひおいでください。これを読まれてとても物足りないと思われる方に、お願いしたいと思います。



▲6月24日 中根先生から海上の森の話を聞く



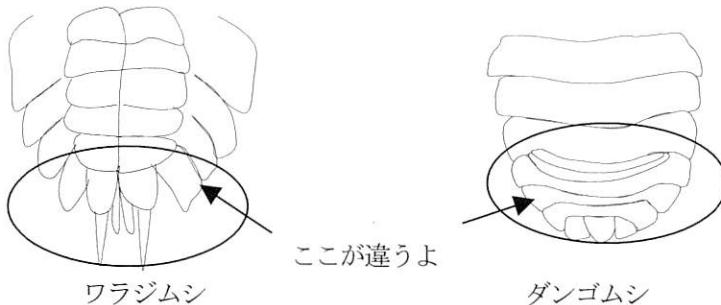
▲7月29日 執筆者と参加者の意見交換会

協議会では平成17年度から環境指標生物（ダンゴムシと陸貝）の調査に取り組んでいます。

## 観察会でダンゴムシを調べよう！

ダンゴムシは身近でよく見られます。しかし、図鑑で見ていると何種類かのダンゴムシが書かれています。しかし、私たちの愛知県ではどんなダンゴムシが住み、どんな場所に住んでいるのかはつきりしません。昨年、一部の方に調べてもらったところ、オカダンゴムシ、セグロコシビロダンゴムシの2種類が見されました。そこで、皆さん近くでどんな場所にどんなダンゴムシが住んでいるのか調べてみようと思います。皆さんの協力をお願いします。

### よく似ているダンゴムシとワラジムシの見分け方



#### (調べ方)

いろいろな環境のところで50cmの方形枠を作り、その中にダンゴムシが何匹住んでいたか調べます。調べる場所は草地、森の中、森の周辺、庭などです。それぞれの観察会で調べたり、身近な庭で調べたり、いろいろな場所で調べるとどんなところにどんなダンゴムシが住んでいるかわかります。調べた結果は下の票に記入してメール、郵便などで送ってください。

#### ダンゴムシ調べ

調査者	
調査日	
場所(所在地)	
環境	草地: どんな草が生えて 林: どんな木が 林の側 林の中
種類	
数	
その他気づいたことを記入	

調査結果の送付先

松尾 初

住所: 松尾 初春日井市宮町3-6-2

電話とFAX: 0568-32-5069

E-mail: gikmatuo@mc.ccnw.ne.jp

## 『特定外来生物に係るアンケート調査結果』

### 【今回の特定外来生物の調査について】

このアンケート調査は、愛知県環境部が昨年度に市町村及び自然観察指導員を対象に郵送方式で行ったものです。このたび愛知県から調査結果の提供を受けましたので、その概要を紹介いたします。調査に協力いただきました会員のみなさん、ありがとうございました。

#### ＜目的＞

特定外来生物の県内における生息状況等の把握

#### ＜調査対象＞

調査地区： 愛知県内 65 市町

対象者： 愛知県内 65 市町村及び、自然観察指導員 354 名を対象に実施

調査期間： 調査書送付…平成 18 年 1 月 27 日

回収期限……平成 18 年 2 月 10 日

#### ＜調査結果の回答数と回答率＞

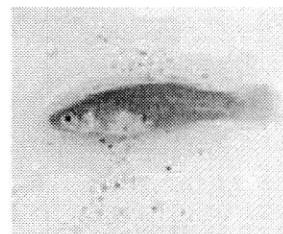
市町村： 65 市町村のうち 62 市町村 (95%)

自然観察指導員： 354 名のうち 86 名 (24%)

合計： 419 のうち 148 (35%)

#### ＜注意事項＞

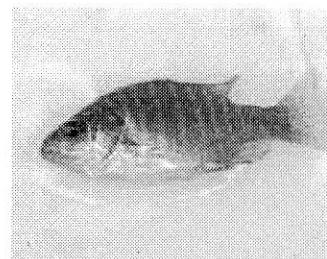
1. 本アンケート調査結果は、原則としてアンケートの回答内容をそのまま集計しており、事実関係について検討は行っていない。
2. 調査対象は、平成 18 年 2 月 1 日現在の、特定外来生物 80 種のうち調査済みの「アライグマ」及び「ヌートリア」を除いた 78 種に、特定外来生物に指定予定の「セイヨウオオマルハナバチ」を加えた 79 種とした。うち、生息報告のあった種は、右頁記載の 20 種。
3. 生息確認地域の市町村数は、平成 18 年 3 月 1 日現在の 65 市町村の区分により記載。



カダヤシ



ウシガエル



ブルーギル

## 《市町村別の生息情報》

		ソウシショウ	カミツキガメ	ウシガエル	オオクチバス	コクチバス	ブルーギル	チャネル	キヤツツトイッシュ	カダヤシ	アルゼンチンアリ	セアカゴケダモ	カワヒバリガイ類	ナガエツルノゲイトウ	ミズヒマワリ	オオフサモ	アレチウリ	オオキンケイギク	オオハングウソウ	オオカワヂシャ	ボタンウキクサ	セイヨウ	オオマルハナバチ
	名古屋市	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	豊橋市	○		○	○	○	○			○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	岡崎市	○		○	○	○	○			○		○				○	○	○	○	○	○	○	
	瀬戸市	○		○	○	○	○			○						○	○	○	○	○	○	○	
	半田市			○	○	○	○			○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	
	春日井市			○	○	○	○			○							○	○	○	○	○	○	
	豊川市				○	○	○					○				○							
	津島市											○											
	碧南市					○	○																
	刈谷市				○	○	○			○								○					
	豊田市		○	○	○	○	○					○					○	○	○	○	○	○	○
	安城市			○	○	○	○			○							○						
	西尾市			○	○	○	○			○						○	○						
	蒲郡市				○													○					
	犬山市			○	○	○	○										○	○	○	○			
	常滑市			○	○	○	○			○						○	○	○	○				
	江南市																	○					
	稲沢市			○		○	○			○							○				○		
	新城市				○	○	○									○	○	○	○	○	○	○	
	東海市				○	○	○			○						○	○	○	○	○	○	○	
	大府市		○	○	○	○	○			○						○	○	○	○	○	○	○	
	知多市			○	○	○	○			○						○	○	○	○	○	○	○	
	尾張旭市																	○				○	○
	高浜市																						
	岩倉市		○							○							○				○	○	
	豊明市			○	○	○	○			○						○	○	○	○				
	日進市				○	○	○										○						
	田原市			○	○	○	○			○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	
	愛西市			○		○	○			○							○						
	清須市																						
	愛知郡																						
	東郷町		○							○								○	○	○			
	長久手町		○	○	○	○											○	○	○				
	西春日井郡		豊山村																				
	師勝町									○									○				
	西春町		○							○									○				
	丹羽郡		大口町																○				
	扶桑町																	○	○				
	海部郡		飛島町		○																		
			弥富町		○																		
	知多郡		阿久比町		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			東浦町		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			南知多町		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			美浜町		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			武豊町		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	幡豆郡		一色町	○																			
	額田郡		幸田町			○	○	○	○									○					
			額田町																				
	西加茂郡		三好町			○	○	○	○														
	北設楽郡		設楽町	○																			
	宝飯郡		音羽町			○	○	○	○														
			一宮町																○				
			小坂井町									○											
合計				5	4	30	31	3	32	1	29	1	1	3	2	2	18	25	25	6	1	8	1

※生息情報のあった市町村のみ記載

## 名古屋市立津賀田中学校の野外学習へのボランティア協力についての報告

西三河支部 吉田 彰



私たち西三河支部と奥三河支部を中心とした自然観察指導員は、平成18年6月27日(火)、名古屋市立津賀田中学校からの依頼により、同校の野外学習(名古屋市稻武野外学習センターから面ノ木園地)で自然観察を行なながらのハイキングに協力しました。

西三河支部のホームページを見られた担当の先生から、「生徒たちと一緒にボランティアで山を歩いていただける方を探しています。」という

1通のメールが今回の企画の始まりでした。依頼の内容は「2年生の生徒たちが稻武野外教育センターで行う野外活動の中の1つである面の木峠まで往復のハイキングに、生徒たちに自然のことなどを話しながら同行していただける方を探している。2年生3クラス生徒数95名:8名編成で12班、つまり12人の指導員の方に協力をお願いしたい。」とのことでした。

当支部の三津井先生の「このごろ子どもたちの『理科離れ』がよくマスコミに取り上げられているが、もっと憂慮しなければならないのは『自然離れ』が進んでいることだ。」という言葉に共感し、子どもたちとともに自然にふれあうことのできる今回の面の木峠の野外学習は、私たちにとって最良の機会と感じ、ぜひ協力したい旨の連絡をしました。

実は、簡単に「協力します。」との返事をしたもの、そのあといくつもの課題が待ち受けていました。

まず、最初の問題が平日に12名の指導員を集めることでした。西三河支部の多くの方に打診をしましたが、やはり半数程度しか集まらず、奥三河支部や昭和の森の月例観察会に参加されている指導員の方などに協力をお願いし、12名の方に協力をいただけすることになりました。(おかげで私はサポートに徹することができました。)

次に、驚いたのが、稻武野外教育センターでの事前打ち合わせの時のことでした。今の子どもたちは、「野外学習を楽しみにしていない。」とのこと。私たちの子どもの時代とは違い、一人ひとりの個室があてがわれ、テレビとエアコンそしてテレビゲームのある生活から、集団でシャワーも自分の思ったときに浴びられない「野外学習」は魅力のないものなのだろう。また、同行する先生たちにとっても自分たちの専門外の「野外学習」は、苦手なもののようにも感じられました。

さらに困ったのが「雨天」の時に何をするかということでした。梅雨のこの季節、雨は避けられないものです。雨の中を歩くというのは、自然観察をするうえでも、障害になることが多いですし、ましてや生徒さんたちが元々興味が薄いのであればなおさらのことです。そこで、室内で20分程度の「ミニ観察会」を行うことを提案し、学校側に了解をいただきました。

生徒は各班ごとに分かれ、各指導員が入れ替わりミニ観察会を計4回行うというプランです。幸い当日は天候に恵まれたので、ミニ観察会の企画はなくなりましたが、個人的には、協力いただいた指導員のみなさんの企画が何であったのか一番興味がありました。（ちなみに私は「雨」という語のつく言葉から、私たち日本人が気象や自然にいかに敏感であったかを感じてもらえるようなミニ観察会を企画していました。）

さて当日、梅雨のあいまの「五月晴れ」の中、津賀田中学校の野外学習は始まりました。人工林からブナの自然林に遷りゆく森林の景色を感じ、野鳥やカジカの鳴き声を聞きながら、時に生徒たちと自然を観て、自然の楽しさを語りながら歩く。まさに今回、私が理想とした「自然観察」の姿がありました。何より嬉しかったのが、生徒さんたちが私たちの言葉に耳を傾け、一緒に自然を観ようしてくれたことでした。

後日、担当された先生から次のような1通のメールをいただきました。

「稻武ハイキングでの自然観察、本当にありがとうございました。生徒はもとより、私たち教員も大変有意義な学習をさせていただきました。長い間、生徒を引率して歩いたコースですが、今回のように自然を学習しながら歩いたことは一度もありません。なんにも自然を見ずに歩いてきたと後悔いたしました。（以下略）」

今回の中学生を対象とした観察会は、私たちにとって初めての企画であり、反省すべきこと改善すべきことも多くありましたが、なにより参加した指導員にとって、とてもよい刺激になったと思っています。

また、私自身も観察会にあたって、これほど事前に勉強をしたことはありませんでした。観察会を終え、あらためて自然に親しむこと、人との関わりを持つことの楽しさを実感し、さらに自然観察は、生物の知識だけではなく様々な知識が必要であり、その知識をいかにうまく伝えるかという熱意と技術が必要であることを感じさせられました。

この場を借りて、今回この企画に共感し、協力いただきました12名の指導員にみなさんに感謝申し上げるとともに、当方の無理を何かとお聞きいただきました津賀田中学校の先生方に感謝を申し上げたいと思います。みなさん本当にありがとうございました。

これからも、今回のような野外学習における観察会の機会を与えていただき、できれば他校にも広がること。そして、より多くの人たちが、自然に目覚めていただけたことができたらと願っています。

追記：平成18年7月10日に津賀田中学校で稻武の体験についてのプレゼン（発表会兼反省会）の授業があり参加させていただきました。

生徒から、稻武のハイキングは「楽しかった」という言葉を聞いて、すごく酬われた気持ちになることができました。



## 知多自然観察会有志の八丈・三宅旅行記（その1）2005.12.24～28

知多支部 竹内秀代

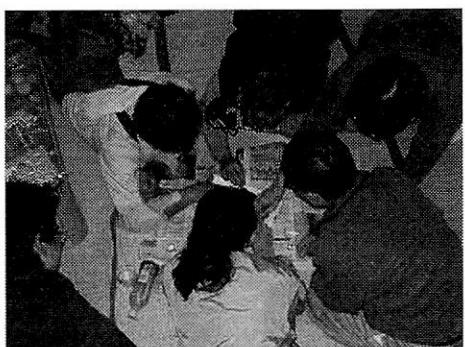
三宅島の島民が昭和の噴火の折、一人も負傷者を出さずに避難をしたというのは小学校の教科書にも載っている話である。その三宅島がまた噴火し（2000.6）全島民避難生活4年半の末2005年2月に帰島が認められ、春からは観光もOKとなった。知多では観察会の折「噴火後あまり時間のたっていない三宅島をみてみたいね。」「いいねえ。」「そこまで行くならついでに八丈島も行きたいね。」という雑談からその旅行は始まった。



2005.12.24 名古屋にしては思ってもみない珍しい前日からの雪。本当に行けるのかちょっと心配。予定より遅れて出発の新幹線に早めに乗るため新幹線ホームに全員無事集合（総勢13名）。いざ羽田へ。飛行場で搭乗手続きを終えるとこれで行けると、やっと安心。

45分の空の旅の後、八丈島の飛行場で待っていたのはアロエの大群と花。八丈島ではまず霜は降りることなく、12月末のこの時期にこんなに寒いのは非常に珍しいとのこと。

海岸はどこも黒い砂浜。車から降りるとどこでもビーチコーミングが始まる。溶岩が細かくなつた砂に混じってキラリと光るカンラン石、輝石、タカラ貝、そして微小貝。大型羊歯…とても書ききれない。参加者それぞれに思い思いの道具を取り出し、思い思いのスタイルで海岸に散らばるものだからちっとも集合しない。見たことのないものに夢中になるとだれも帰ろうと言わないものだから動けない。返事だけ。さすがにタイムキーパーのS氏が「集合は何分後。」と言って散らばるようになった。



夜には集めたものやデーターの整理。翌日の行動計画を芋焼酎片手にわいわいがやがやと立てるのも楽しい。途中立ち寄った資料館で見つけたチラシをたよりに無料バスに乗り、夕食を早々に切り上げ光るキノコを見に出かけ、地熱の有効利用や八丈島の地起こしについても知った。2日目には八丈富士に登り太平洋を吹き上げる強風を体験したり、その強風に耐えて生きる植物たちの知恵を目にしたりした。2泊して3日目には船で三宅島に移動の予定が強風で波が高いために1日予定を延ばさざるを得なくなった。（船運休の連絡は島の放送で知らされる）→次号へ続く

# 自然観察会

## ～スタッフになろう！ ＆伝え方のヒント～

名古屋支部 近藤 記巳子

### ■ スタッフになろう

みなさんは、旅先で自然観察会に参加された経験はあるでしょうか。今回は、長野県で活動するグループとそのスタッフを紹介します。

軽井沢のリゾートホテル内に「ピッキオ」というグループが存在します。野生動植物の調査・研究、保全活動を行い、それらの活動を活かしたエコツアーを実施しています。「花のおもしろフィールド図鑑」「虫のおもしろ私生活」などの編著がありますから、それらの本を通してピッキオの存在を知っている方もいるでしょう。ひょっとしたら、みなさんの本棚にも並んでいるかもしれませんね。

ピッキオが主催するエコツアーは、主としてホテル利用者を対象に約2時間、参加費は大人・子ども共に1,000円（一般は1,500円）です。そのツアーに参加した私の印象は以下の通りです。

- a. 柔和な表情と楽しませる会話
- b. 豊富な小道具
- c. 活動内容をワークショップ形式で取り入れた構成及びその紹介

全体を通してホスピタリティに徹しているのは見事です。ただ難を言えば、オーバーなアクションが気になるスタッフもいます。運営方針にインタープリターであることに加え、エンターテイメントであることが求められるということですから、やむを得ないのでしょうか。翻って私たちの観察会はどうでしょう。ホテルのサービスの一環としてのエコツアーと同じ土俵にあげて考えるには、少々無理があるかもしれませんのが、学ぶべきこと、ちょっとした心がけで実行可能なことがあります。

「エコツアーは、ロードショー1本分を楽しむ価値と同等」とは、彼らの弁。日頃私たちが実施している観察会の価値は、何と比較検討できるでしょう。映画1本分？ ケーキセット？ コーヒー1杯分？ 案内する側・参加する側、それぞれの立場で、考えてみたいものです。

スタッフとして行動する時の参考になれば・・・とあえて取り上げてみました。

### ■ 伝え方のヒント～歌ってみよう～

自然をテーマにした唱歌・童謡などがあります。これから季節ならば、「虫の声」「小さい秋みつけた」「赤とんぼ」「どんぐりころころ」「もみじ」等々。それらを観察会で歌うことがあります。

相生山緑地自然観察会では「虫の音コンサート」と題して定例観察会を行っています。集合場所から参加者と一緒に森の中、草地などのフィールドを巡りながら虫の音に耳を傾け、その後全員で「虫の声」を歌います。

#### ♪虫の声

あれ松虫が鳴いている  
ちんちろちんちろ ちんちろりん  
あれ鈴虫も鳴きだした  
りんりんりんりん りいんりん  
秋のよながを鳴き通す  
ああおもしろい虫の声



「さっき聞いたマツムシの声と違うね～」  
「チッ チロリンだったよね～」  
「そうそう。それに、スズムシの声も違うね」  
そんな会話が参加者同士で交わされ、歌詞から鳴き方の再確認をします。

またドングリをテーマにした観察会では「どんぐり ころころ」を歌うこと。3番の歌詞にはリスが登場し、「へえ～」と思われる参加者が多いようです。違うといえば「おたまじやくし」の歌詞にも「おやおや・・・」という箇所があります。どこが変なのか、みなさんが探してみてくださいね。（紙面の都合で、両方の歌詞を共に掲載できません。調べてもわからないという方は、近藤まで問合せをどうぞ）

何気なく歌っている歌ですが、是非観察会で取り上げることを提案します。歌詞にこめられた自然への想いにあらためて気づきます。生態やあるいは色彩学に及ぶ発見もあります。アプローチが違えば、より多くの参加者が関心を寄せることにつながることでしょう。

### 平成18年度

### 第2回理事会

日時：2006/8/5 13:30~16:30

場所：なごやボランティア・NPOセンター

出席者：松尾、鬼頭、降幡、石田、大谷、齋竹、佐藤、滝田、永田、堀田、村上、山下、山田、吉川、吉田、傍聴1名

議長 鬼頭 記録 齋竹

議事

#### 1 観察会用の旗の作成について

縦型で濃緑に白抜き文字で「自然観察会」を入れ、上部と横でポールに結びつけるタイプとする。

定例観察会の数の30枚くらいで見積りをとり、予算の範囲内で作成配布。それ以上の枚数を希望する支部は費用を負担して追加発注する。

予算に余裕があればポールも配布する。

#### 2 協議会HPについて

会のシンボルマークとして提案されたハナノキの葉6枚をデザインしたものを使い、その後会員に諮って決定する。

会の通称をドメイン名したいが、HPはとりあえず個人の所にアップし、通称を募集する。

会長挨拶の代わりに自然観察基本方針と参加呼びかけの文章を載せる。

HPの管理運営は担当任せにせず、みんなで支えあうことが重要であるとの意見があった。

#### 3 指導員研修会（11月11日～12日 犬山ユースホステルにて）について

参加者募集の期間は9月20日～10月14日とする。

講師は植原彰氏とし、必要なら地元講師派遣を要請する。

テーマが「学校における自然観察」なので、先生への広報に努める。

#### 4 役割分担について

監事の一人が研修担当を兼ねることになっていたが、監事として適正な職務執行ができないとなるおそれがあるので、研修担当からはずれることが了解された。

#### 5 その他

- (1) 各支部で会費納入状況を確認し、名簿を8月下旬までに提出して欲しい。
- (2) 前年度から取組んでいるダンゴムシ調査を進める。
- (3) 保険代理店の変更について連絡が欲しかったとの意見が出されたが、事故は担当理事を通じて手続きをすることにしているので、代理店変更は連絡しなかったとの見解があった。
- (4) カシノナガキクイムシの被害について名古屋支部で調査を始める旨の報告があった。
- (5) スズメバチに刺された時にショックをやわらげる注射の利用について提案ががあった。
- (6) 9月24日にオープンする海上の森センターに開連し、9月22日にシンポジウムと分科会、23日に現地見学会が予定されている旨の報告があった。
- (7) 19年度の事業計画について意見交換が行われ、次回に概要を決定することとした。  
調査担当から、次年度の調査は、関心を持ってもらいやすい、特定外来生物のオオキンケイギクの調査を検討しているとの発言があった。
- (8) 協議会の活動について次のような意見が出された。
  - ア 会費が高いという声がある。協議会に参加しているメリットを示す必要がある。
  - イ 民間の補助制度などを活用すれば、会費を下げることも可能になる。
  - ウ 会員に協議会の活動が見えない。協議会としてフィールドでの支援を考えてはどうか。
  - エ 前向きの活動を考えていく必要がある。
- (9) 次回の理事会は11月23日の13:30から開催することとした。

## ■ 訂正のお願い

### 「愛知県のブナ科樹木分布調査報告書」

前回の「協議会ニュース No.107」に同封の「愛知県のブナ科・・・」につきまして、ミスがありましたので、下記の通り訂正をお願いいたします。

#### p 3 表-4 愛知県産ブナ科植物一覧表

誤) 11 イチイガシ → 正) 16 に番号変更  
 誤) 12 アカガシ → 正) 14 に番号変更  
 誤) 13 ツクバネガシ → 正) 15 に番号変更  
 誤) 14 アラカシ → 正) 11 に番号変更  
 誤) 15 ウラジロガシ → 正) 13 に番号変更  
 誤) 16 シラカシ → 正) 12 に番号変更

以上

※今回の誤りにつきましては、新城市在住の鈴木隆さん（奥三河支部）から、連絡をいただきました。ご指摘をありがとうございました。

## ■ 送付の冊子について

前回の「協議会ニュースNo.107」に、お知らせしましたように「愛知県のブナ科・・・」及び「海辺の自然」の2冊は、総会や研修に参加された会員には、送付をしておりません。また昨秋に指導員講習会を受講された方には、その受講時に手渡しをしていますが、一部の方に渡っていないという情報を得ました。いずれにしましても過去に受け取っていないという会員の方は、事務局近藤まで申し出てください。(T/F (052)822-7460)

申し出のあった方には、次号の協議会ニュースNo.109に同封の手配をします。

## ■ 会費納入= 忘れていませんか?



会員のみなさん、会費納入は手続き済みでしょうか? 会費は、「協議会ニュース」作成及び配布、各種研修、観察会など、会の円滑な運営に使われます。

「忘れた!」という方は、さっそく金融機関で納入ください。未確認の場合は、会員名簿から削除になると同時に、各種特典を受けることができませんので、注意ください。尚、詳細については各支部会計に問い合わせ願います。

## ■ 会員名簿について

名簿に下記会員の連絡先を追加ください。

辻愛子（尾張支部）

465-0005 名古屋市名東区香流 1-1418-202

052-772-4966

池田賀津子（西三河支部）

471-0876 豊田市金谷町 4-25-5 302 号

0565-35-2963

日比理智（尾張支部）

470-0155 東郷町白鳥 3-24-3

0561-38-4202

廣岡貴志（名古屋支部）

458-0038 名古屋市緑区作の山町 167-101

052-982-8478

## ■ 原稿募集中!!



「協議会ニュース」掲載用の下記原稿を

募集しています。

①表紙の写真・イラストなど

②自然観察についての連載原稿

※以上2件は、来年H19年1月より隔月に6回連載予定のものです。

③豊かな自然セレクション 100

愛知県のHPにアップされている同タイトルの自然について紹介ください。尚、このHP作成に当たっては、当協議会が資料提供の協力に当たっています。

[http://kankyojoho.pref.aichi.jp/ecospot/shizen/shizen\\_50on/shizen\\_50on.html](http://kankyojoho.pref.aichi.jp/ecospot/shizen/shizen_50on/shizen_50on.html)

④調査・研究のレポート

⑤紀行文その他

◆①②については、編集計画の都合がありますので、10月末までに連絡を願います。

◆③～⑤につきましては、随時募集中です。

(以上、事務局:近藤)

## 行事予定

### ふるさと親子自然観察

開催日時	集合場所	テーマ	問い合わせ先
9/18(休) 9:30~14:00	愛環鉄道山口駅前	海上の森「水辺の生き物と雑木林の観察」	090-6077-5388 山口健
10/7(土) 17:30~20:00	葦毛湿原入口 長尾池横広場	葦毛湿原「夕闇の観察会」	0562-93-4927 星野芳彦

### フォローアップ研修

開催日時	集合場所	テーマ	問い合わせ先
9/23(土) 10:00~13:00	海上の森入口P (旧銭屋鉱産跡地)	バッタ	0572-23-6907
10/29(日) 10:00~13:00	海上の森入口P (旧銭屋鉱産跡地)	木の実	大谷敏和

### 愛知県主催 < 自然観察指導員フォローアップ研修会 >

開催日/費用 11月11~12日 / 9千円程度 場所 犬山国際ユースホステル  
募集期間 9月20日~10月13日 定員 40名(県内35名 県外5名)  
テーマ 子どもを対象とした環境学習 講師 植原彰氏  
申込み 愛知県環境調査センター企画情報部 電話 052-910-5489

### 〈編集部からのおしらせ〉

◎協議会ニュースの編集や発送を担当していただけるスタッフを募集しています。協力いただける方は、事務局までご連絡ください。  
◎協議会ニュースに関するみなさんのご意見・ご感想や自然観察に関連する原稿をお寄せください。(送付先: 下記編集部又は E-mail: BZA03620@nifty.ne.jp)  
なお、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。また、紙面の都合で掲載時期が遅れることがあります。あらかじめご了承ください。

### 編集後記

- 愛知県が実施した「特定外来生物に係わるアンケート調査」の結果を p 4~5 に掲載しました。指導員宛ての郵送 345 通、うち回答は 86 通 (24%)。この回答率ですが、みなさんの予想と比べていかがでしょう。多いでしょうか? 少ないでしょうか?
- 8月上旬、知人宅(名古屋市守山区)にアライグマ出現!
- 先ごろ届いた NACS-J「自然保護」には、「外来種問題・・・」の特集が組まれています。ブラックバス・アライグマ等の記事の併読をどうぞ。 (近藤)

表紙「サシバ」

写真・文 大羽康利

編集スタッフ

岩沙 雅代、近藤 記巳子、齋竹 善行、  
永田 孝、古川 俊江、牧野 靖子、  
横井 邦子、吉田 孝三

協議会ニュース編集部

〒470-2401

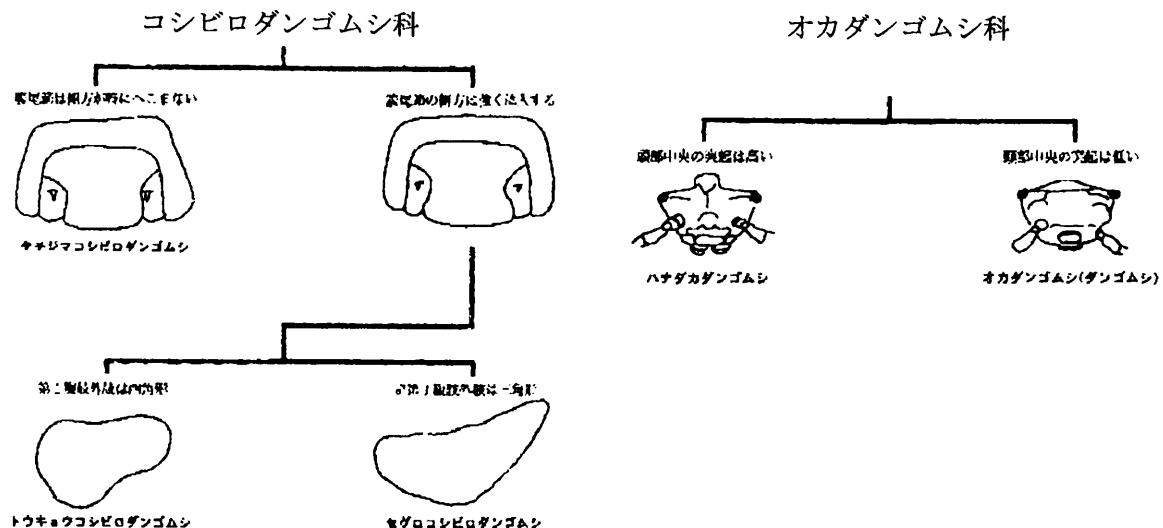
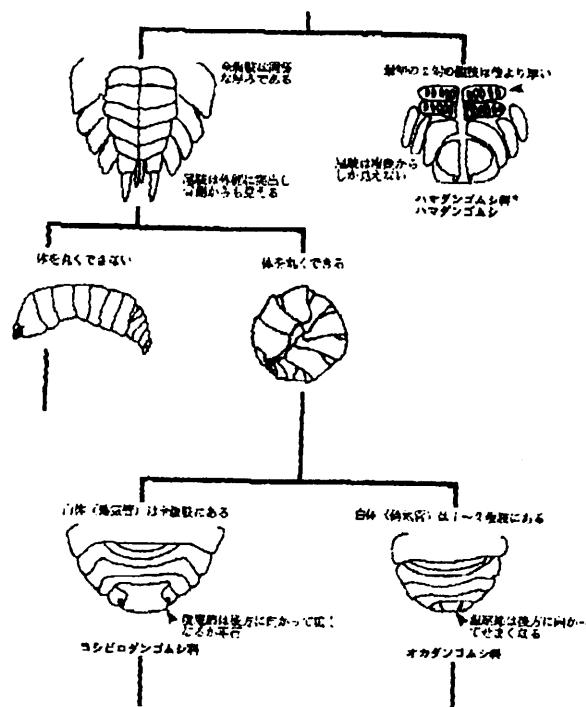
美浜町布土明山 299-2

永田 孝

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖 2-6-17 桜本町 CH101  
近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460

## ダンゴムシの見分け方



# ダンゴムシ調査のための資料

## ダンゴムシの種類

コシビロダンゴムシ科 Armadillidae

セグロコシビロダンゴムシ

*Sphaerillo dorsalis* (Iwamoto)

体長 7.5mm。黒褐色で淡色の模様をもつ。腹尾節はその後端で広がる。♂の第1腹肢外肢は三角形。福井県や神奈川県から知られているが、わが国には多くの近似種が分布している。



セグロコシビロダンゴムシ

タテジマコシビロダンゴムシ

*Sphaerillo russoi* (Arcangeli)

体長 8 mm。薄い地色に不規則な縦じまの黒模様。腹尾節がやや長い。眼は普通の大きさで、各 15 個眼からなる。中国、四国、九州およびそれらの離島など西南日本の森林に普通。



タテジマコシビロダンゴムシ

オカダンゴムシ科 Armadillidiidae

オカダンゴムシ (ダンゴムシ)

*Armadillidium vulgare* (Latreille)

体長 14mm まで。体を完全に丸くできる。

♂は黒っぽく、♀は淡褐色。世界共通種でわが国にも全国の都市部に生息。中部日本に特に多い。



オカダンゴムシ

ハナダカダンゴムシ

*Armadillidium nasatum* Budde-Lund

体長 13mm まで。灰色で、各体節の側縁部や中央部などは白い。体を完全に丸くできる。前種と比較し、頭部中央の突起が顕著である。世界共通種であるが、わが国では横浜市の一帯から知られている。



ハナダカダンゴムシ

ハマダンゴムシ科 Tylidae

ハマダンゴムシ

*Tylos granuliferus* Budde-Lund

体長 20mm まで。体を完全に丸くできる。体色は灰色、緑、だいだい色など。日本各地の海浜に分布。



ハマダンゴムシ